

# 2016年度 秋の三者総会 議案書

2017年度 三者事務局校 筑波大学

平成 28 年 11 月 29 日

## 目次

<b>1</b>	<b>2016 年度決算</b> [’16/11/4 現在]	<b>2</b>
1.1	会計の概要	2
1.2	一般会計	2
1.3	特別会計	2
1.3.1	特別会計の詳細	3
1.4	役職校予算の詳細	3
1.4.1	役職校予算一覧	3
1.4.2	役職校予算の詳細	3
<b>2</b>	<b>2017 年度予算案</b> [’16/11/04 現在]	<b>4</b>
2.1	収入予定 (概算)	4
2.2	支出予定：各役職校からの予算申請を元に作成、内訳は次節以降に記載	5
2.2.1	各三者役職校の支出予定項目	5
2.2.2	各パート役職校の支出予定項目	6
<b>3</b>	<b>予算案に関する議案書</b>	<b>8</b>
3.1	議題として予算案を挙げたことについてのコメント	8
3.2	パート準備校として既に用意があるものリスト	8
3.3	予算案	9
3.3.1	予算案作成時の心づもり	9
3.3.2	実際に提出した予算案	9
3.3.3	FAQ	10
<b>4</b>	<b>その他の議案</b>	<b>13</b>
4.1	動機 - 秋季学会における援助申請の現状	13
4.2	議案 1. 引き継ぎの早期化	13
4.3	議案 2. 高エネルギーパート存続の要否，及び研究会の名称変更	13
4.4	FAQ	14

## 1 2016 度決算 [ '16/11/4 現在]

### 1.1 会計の概要

前年度の様式に倣い、三者若手の会計を以下の2つに分類する。

#### 一般会計

一般会計では、学生からの参加費を財源として、夏の学校の開催・運営のための予算を扱う。参加費から運営費を引いた残りは、学生への補助として特別会計に回される。

#### 特別会計

特別会計では、学生参加費の一部と外部団体からの援助を財源として、招待講師や学生への補助を扱う。

### 1.2 一般会計

役職校予算の詳細は 1.4 を参照。

収入	金額	支出	金額
宿泊費・食費徴収額	¥8,271,800	宿泊施設への支払い額	¥8,271,800
参加費：¥4,000×247人	¥988,000	役職校予算	¥170,199
原稿執筆料(物理学会誌)	¥12,000	特別会計への支出	¥829,801
合計	¥9,271,800	合計	¥9,271,800

### 1.3 特別会計

収入	金額	支出	金額
一般会計からの収入	¥829,801	招待講師補助	¥0
基礎物理学研究所援助	¥485,790	学生補助*1	¥1,682,992
素粒子論グループ援助 RCNP 後援*2	¥450,000	ポスター印刷費	¥49,790
前年度繰越金	¥847,856	次年度繰越金	¥880,665
合計	¥2,613,447	合計	¥2,613,447

\*1：発表・非発表学生に対する補助合計額。

\*2：RCNP より、『原子核研究 夏の学校特集号』出版費を援助していただいている。

1.3.1 特別会計の詳細

収入	金額	支出	金額
基礎物理学研究所援助	¥ 485,790	招待講師補助 発表学生補助 ポスター印刷費	¥ 0 ¥ 436,000 ¥ 49,790
一般会計からの収入	¥ 829,801	招待講師補助	¥ 0
素粒子論グループ援助	¥ 450,000	学生補助	¥ 1,246,992
RCNP 後援			
前年度繰越金	¥ 847,856	次年度繰越金	¥ 880,665
合計	¥ 2,613,447	合計	¥ 2,613,447

1.4 役職校予算の詳細

1.4.1 役職校予算一覧

役職校名	大学	予算案	決算	前年度決算
三者センター校	九州大学	¥ 840	¥ 9,292	¥ 10,844
三者準備校	京都大学	¥ 130,000	¥ 155,836	¥ 422,733
三者事務局校	総研大	¥ 0	¥ 0	¥ 0
三者名簿校	早稲田大学	¥ 0	¥ 0	¥ 0
素粒子論パート事務局校	金沢大学	¥ 0	¥ 0	¥ 0
素粒子論パート準備校兼講義録作成校 (現象)	富山大学	¥ 9,100	¥ 5,071	¥ 6,714
素粒子論パート講義録作成校 (弦)	名古屋大学	¥ 0	¥ 0	¥ 0
素粒子論パート講義録作成校 (場)	お茶の水女子大学	¥ 0	¥ 0	¥ 0
原子核パートセンター校	大阪大学	¥ 0	¥ 0	¥ 0
原子核パート準備校	北海道大学	¥ 5,000	¥ 0	¥ 2,405
合計額		¥ 144,940	¥ 170,199	¥ 432,716

1.4.2 役職校予算の詳細

- 三者センター校 (九州大学)

項目	予算	決算	前年度決算
振込手数料	¥ 840	¥ 8,712	¥ 10,844
賞状代	¥ 0	¥ 580	¥ 0
計	¥ 840	¥ 9,292	¥ 10,844

## ● 三者準備校 (京都大学)

項目	予算	決算	前年度決算
施設使用料	¥0	¥0	¥250,000
ポスター制作費	¥0	¥0	¥20,000
コピー代	¥20,000	¥0	¥691
文具代	¥20,000	¥10,636	¥932
郵送費	¥20,000	¥0*	¥22,524
会場下見代	¥70,000	¥69,136	¥89,940
レンタカー代	¥0	¥76,064	¥34,278
振込手数料	¥0	¥0	¥1,008
計	¥130,000	¥155,836	¥422,696

\* 領収書紛失のため担当者自己負担

## ● 素粒子パート準備校 (富山大学)

項目	予算	決算	前年度決算
ホワイトボードマーカー+ポスターセッション用テープ	¥800	¥2,387	¥0
マーカーカートリッジ	¥800	¥0	¥0
機材送料	¥4,500	¥2,684	¥3,824
録画機器・記録媒体・消耗品(電池類)	¥3,000	¥0	¥2,890
計	¥9,100	¥5,071	¥6,714

## ● 原子核パート準備校 (北海道大学)

項目	予算	決算	前年度決算
文具代	¥3,000	¥0	¥2,225
コピー代	¥2,000	¥0	¥180
郵送料	¥0	¥0	¥0
雑費	¥0	¥0	¥0
計	¥5,000	¥0	¥2,405

★ ホテル・三者準備校側で用意したものを利用したため、決算額は¥0。

## 2 2017 年度予算案

[ '16/11/04 現在]

文責：黒田佳樹 (名古屋大学)

## 2.1 収入予定 (概算)

(1) 前年度繰越金 (2016 年度決算終了時の繰越金額を記載) : ¥880,665

(2) 参加費 (参加者が 250 名の場合) : ¥4,000 × 250 = ¥1,000,000

(3) 外部団体への援助・協賛申請 (内訳は下表) : ¥950,000

団体名	内容	今年度申請額
素粒子論グループ	旅費補助 *1	¥450,000
基研	講師等旅費, ポスター印刷費 *3	¥500,000*2
原子核談話会	協賛	¥0
RCNP	協賛	¥0
KEK	協賛	¥0
高エネルギー研究者会議	協賛, 原子核研究「夏の学校特集号」出版費 *4	¥0
申請額合計		¥950,000

\*1 秋季学会で援助申請を行った。承認して頂き援助をしてもらうことが決定した。

\*2 例年どおり申請を1月に行う予定。

\*3 ポスター印刷費は、実際にかかった費用のみが支払われる。

\*4 春季学会にて援助申請予定。

収入合計：(1) + (2) + (3) = ¥2,830,665

## 2.2 支出予定：各役職校からの予算申請を元に作成、内訳は次節以降に記載。

役職名	大学	2017 年度予算案	2016 年度決算案 *1
三者センター校	名古屋大学	¥20,000	¥9292
三者事務局校	筑波大学	¥0	¥0
三者準備校	東京大学 (駒場)、東京工業大学	¥360,200	¥155,836
三者名簿校	茨城大学	¥0	¥0
素粒子論パート事務局校	千葉大学	¥0	¥0
素粒子論パート準備兼講義録校 (場)	広島大学	¥59,000	¥5,071
素粒子論パート講義録校 (弦)	立教大学	¥0	¥0
素粒子論パート講義録校 (場)	新潟大学	¥0	¥0
原子核パートセンター校	九州大学	¥0	¥0
原子核パート準備校	東北大学	¥4,000	¥0
高エネルギーパート準備校	休講	¥0	¥0
合計	—	¥443,200	¥170,199

\*1 2016 年度決算は 2016 年度三者センター校の決算報告 (案) に基づいている。

(注 1.) 支出は他に『学生旅費補助』、『次年度繰越金』、『ポスター印刷費 (上限 5 万円)』、『講師旅費』などがある。

(注 2.) 役職は他にハラスメント対策委員があるが支出金額は ¥0。

### 2.2.1 各三者役職校の支出予定項目

#### ● 三者センター校 (名古屋大学)

項目	2017 年度予算案	2016 年度決算案
振込手数料	¥17,000	¥8,712
賞状代	¥3,000	¥580
合計	¥20,000	¥9,292

振込手数料：宿泊費の振り込み手数料 + 参加者への補助金の振込手数料

- 三者準備校 (東京大学 (駒場キャンパス)、東京工業大学)

項目	2017 年度予算案	2016 年度決算案
施設使用料	¥305,200	¥0
コピー代	¥20,000	¥0
文具代	¥10,000	¥10,636
郵送費	¥20,000	¥0
下見交通費	¥5,000	¥69,136
レンタカー代	¥0	¥76,064
申請額合計	¥360,200	¥155,836

施設使用料：会場の部屋の使用にかかる費用

コピー代：ポスター印刷以外のコピーにかかる費用

文具代：運営に必要な文具、特にポスター送付のための封筒などを買う費用

郵送費：ポスターを各大学に送付するのにかかる費用

下見交通費：会場下見に行くための交通費

### 2.2.2 各パート役職校の支出予定項目

- 素粒子論パート準備校 (広島大学)

項目	2017 年度予算案	2016 年度決算案
プレゼン機材	¥5,000	¥0
録音・録画機材	¥41,000	¥0
消耗品代	¥3,000	¥2,387
機材送料	¥10,000	¥2,684
合計	¥59,000	¥5,071

プレゼン機材：レーザーポインタ、ピンマイク、延長コードの購入費

録音・録画機材：ビデオカメラ、ボイスレコーダー、三脚、SD カード 4 枚の購入費

消耗品：電池、ホワイトボードマーカーなど

機材送料：広島大学からオリンピックセンターへの往復送料、引き継ぎのための送料

## ● 原子核パート準備校 (東北大学)

項目	2017 年度予算案	2016 年度決算案
文具代	¥3,000	¥0
コピー・印刷代	¥1,000	¥0
合計	¥4,000	¥0

文具代：ホワイトボードマーカー、イレーザー、ポインタ用電池

コピー・印刷代：講師用パンフ印刷、コピー用紙

### 3 予算案に関する議案書

#### ○ 提案研究室

広島大学 理学研究科 宇宙素粒子論講座 素粒子論研究室

#### 3.1 議題として予算案を挙げたことについてのコメント

初めに、この度 2017 年度素粒子論パート準備校（及び役職項）として予算案に関する議案書を作成するに至った経緯をまとめます。後に具体的に提示しますが、今回の予算案では講義録作成校が使用するための録画機材一式の購入を考えております。しかしながら、これらは当然安い買い物ではないため、その是非を問うために議題として提出し、議論していただきたいと考えております。一方で、三者側の立場として、限られた予算をできる限り参加者の旅費補助に回したいということは十分理解しているつもりですし、また、その理念には基本的に賛成であります。しかしながら、講義録作成という役割が存在する以上、その作成のための機材は実際問題として当然必要となりますし、これまでは上手いこと問題を先延ばしにしていたようですが、そろそろ一度議論をしても良い頃ではないかと思えます。

先にも述べましたが、三者側の旅費補助に少しでも多くの額を投じたいという基本理念は大切なものであることは疑う余地もありません。その上でぜひ、**ご自身が素粒子論パートの講義録作成校やパート準備校になった場合に、録画機材が夏の学校サイドで用意できないことが如何に不便であるかの視点も考慮した上で議論をしていただければと思います**。特に「今年は何とかなりそうだから問題なし」や「自分の研究室には当面関係ないからどうでも良い」ではなくて、それ以降のことも見越した建設的な議論になるよう、よろしく願いいたします。

#### 3.2 パート準備校として既に用意があるものリスト

予算案を提示する前に、前年度からの引継ぎにより現在素粒子論パートとして準備ができているものについて、そのリストを提示いたします。逆にいえば、特に目新しいものを買い足さない限り来年以降も以下のリストに記載されたものしか素粒子論パートとしては準備できません（もちろん、年によって若干の数の上下はあるかと思えます。）

- ホワイトボードマーカー（黒・赤・青・緑）及びその替え芯（十分な数あり）
- 油性ペン（複数あり）
- ホワイトボード消し（複数あり）
- セロテープ ×2
- SD カード（4GB）×2
- ボタン電池（CR2025）×1

- 単4電池 ×4
- 電源ドラム ×1

### 3.3 予算案

#### 3.3.1 予算案作成時の心づもり

- およそ 1,000-2,000 円単位での見積もりです。(具体的な値段は、いつどこで物を買うかなどに依存するため議論しかねます。)
- 他の素粒子論パート役職校(パート事務局校(千葉大学)、講義録作成校(現象論)(新潟大学)、講義録作成校(超弦理論)(立教大学))は0円で計上する代わりに、パート準備校でまとめて計上しています。
- 後から「やっぱりこれも必要」ということは出来ないようなので、多少の余裕を持って計算しています。
- 語弊を恐れずに言えば、正直なところ予算案は「案」であって、もともとこれが全て承認されるとはこちらも思っておらず、決して深刻に考えて作ってはおりません(予算案を計上し、それを元に(減額も覚悟の上)配分された金額の中でやりくりするものとは理解しております。)

#### 3.3.2 実際に提出した予算案

- (1) プレゼン用機材他( 1, 2): 5,000 円
    - － レーザーポインター, ピンマイク, 延長コード.
  - (2) 録音・録画機材( 1, 2): 41,000 円
    - － ビデオカメラ, ボイスレコーダー, 三脚, SDカード(32GB)4枚.
  - (3) 消耗品等: 3,000 円
    - － 電池, ホワイトボードマーカーなど.
  - (4) 機材送料: 10,000 円
    - － 広島大学からオリンピックセンターへの往復送料, 再来年度役職校への機材引継ぎ送料.
- 1 (1) および(2)については, (a) 素粒子パート役職校から準備することができそうにないこと, (b) 例年でも誰が準備して管理するのかという問題が生じていること, (c) 私物や大学の持ち物を用いるのは万が一故障した際の責任が持て

ないこと<sup>1</sup>，に鑑みて，現時点で素粒子パートとして1セット購入できないかと考えております．

- 2 プレゼン・録画・録音機材等について，上記の理由に加え，おそらくイニシャルコストの面から購入したくても先延ばしにしてきたのだと思いますが，あって困るものではないし，いつかは購入するべきと考え，今年購入する提案をさせていただこうと思いましたが．その際，どの程度の性能があれば良いかなどの見積もりや知識がないので，「安物買いの銭失い」はしないように最低ランクの商品は除いて予算案を考えました．

### 3.3.3 FAQ

- 録音・録画機材等で 41,000 円はお金を使い過ぎではないのか？
  - － 非常に大雑把に，ビデオカメラ 25,000 円，ボイスレコーダー 5,000 円，三脚 3,000 円，SD カード 2,000 円× 4 枚という計算です（Amazon で見ました）．上述しましたが，どの程度のスペックがあると良いのかの知識が無く，安物買いの銭失いにならないように最低ランクの商品は除外していません（最低ランクの商品で揃えると約 20,000 円のように）
- SD カードは 4 枚必要なのか、3 枚で十分なのでは？
  - － ベースは場の理論で 1 枚，現象論で 1 枚，超弦理論で 1 枚，予備 1 枚という計算です．実際には，目安としては 32GB で 5 時間程度の動画が撮影可能と伺ったことがあります．今年度の素粒子論パートの講義時間の総計は約 22 時間だったそうなので，単純計算で各講義録校でそれぞれ 7 時間強分のデータファイルが発生するので 32GB の SD カードが 6 枚欲しい計算になりますが（十分な容量の）HD 内蔵のビデオカメラがあれば 4 枚で済みます．
- 購入したものの取り扱いや管理についてはどのように考えているのか？
  - － 第一案は，保管・引継ぎに関して基本的に本体（及び付属品・説明書）は（他の道具（前出のリストを参照）と共に）素粒子論パート準備校の管理下に置くことです．その際，原則として三者若手関連以外の用途での使用はしないこと，時々動作確認を行い，問題があるようならばすぐに各役職項に連絡することを徹底することを考えております．ただし，外部からはこれを徹底しているかの確認が難しく，該当校およびその構成員の倫理観等に強く依存してしまうため，議論を深める余地があると考えます．第二案は，基研などの関連機関で保存してもらえないかという案です．その場

<sup>1</sup>例えば，個人のを借りて使う場合，悪意なく壊してしまった場合に責任が取れないことを了承してもらった上で借りなければ使用すべきではないと考えます．また，研究室や大学のものを借りる場合にも，その使用規定（特に，過失により壊してしまった時の対応など）がまちまちであったり，あるいは研究室単位での利用でない（私的利用とまでは言いませんが，夏の学校は正式な課外活動とは言いつらい位置付けだと思われる）ことから使用がそもそも憚られるものであったりするかと思います．

合には、少なくとも保管・管理という面での心配は大分減ります。場合によっては「夏の学校の際は基研（等）から毎回レンタルする前提で、向こうサイドで購入してもらおう」という形も考えられます。その場合、予算の議論はしなくて済みますが、基研（等）側とのより細かい取り決めは設定しなければならないでしょう（まあ、現時点ではこちら側が勝手に意見を言っているだけですが。）

- カメラなどの機材を壊してしまった場合の措置についての考えはどうか？
  - － 元々「三者若手夏の学校での講義録作成の際に使用するため」に購入したのであれば、用途の範囲内で過失により故障等を発生させた場合には、支障はあるが問題ない、即ち、誰かが責任を被るものではないと思います（ある用途のために購入した機材が、その用途で使用する上で不意に壊れてしまうことは想定内の範囲内ではないでしょうか。逆にいえば、そういったことを想定した上での購入である必要があると思います。）そうではなく、誰の目にも明らかなぞんざいな扱いによる故障や、故意・過失に関わらず紛失してしまった場合には、当事者（先の例だとぞんざいに使った本人や紛失した際に最後に管理していた人）ないし管理代表者（おそらく、素粒子論パート準備校の代表者）が責任を被ると規定して良いかと思えます。
- カメラの私的利用などの不祥事が生じた場合の対応はどう考えているのか？
  - － 罰則などという意味であれば、三者総会等で皆で議論した上で取り決めるべきであると考え、個人の意見を述べるのは差し控えさせていただきます。上述しておりますが、現時点で思いつく不祥事を防ぐ手立てについても、外部からの取り締まりが難しく、個人の倫理観に基づくものという以上のものは思いついていないため、これについても議論が深まれば良いと思います。
- 機材の送料が（広島大学から、オリンピックセンターへの往復送料）+（広島大学から次の役職校への送料）となっているが、（広島大学から、オリンピックセンターへの送料）+（オリンピックセンターから次の役職校への送料）にするのはどうか？録画・録音したデータを一度大学の方に持っていき編集したいということで往復としていると思いますが、夏の学校中にパソコンにデータを取り込んでしまえば往復にする必要がないように思えます。
  - － 次の役職校がどこか分からない点、見知らぬ土地で郵送の手続きまで行う余裕があるのかという点を考慮し、一度責任を持って広島大学に持ち帰ることを考えておりました。単に今年の備品の引継ぎが後日ということも参考にしました。また、データの件ですが、結構なデータサイズになるであろう動画ファイルを個人所有のノートパソコンに入れるというのはしたく（させたく）ありません（PCの容量を圧迫するのはもちろんのこと、万が

ーそのパソコンを紛失した場合に責任の所在があやふやになります（PCの所有者？データを預けた人？それを認めた三者側？）。）

- プロジェクター、マイク、スクリーン、ホワイトボードなどの追加の申請はないのか？
  - ー プロジェクター等について、素粒子論パートとして個別に計上しなければ使用することは出来ないのでしょうか。つまり、おそらく三者共通講義で使用するものがあるかと思いますが、それを使い回すことは出来ないのでしょうか。これに対するお返事次第で、さらにプロジェクター等の使用料が必要になります。

## 4 その他の議案

### 4.1 動機 - 秋季学会における援助申請の現状

例年、予算の確保の為に秋季学会にて素粒子論グループ(素粒子サブグループと核理論サブグループ)に援助申請を行っている。今年度の援助申請にて、素粒子論グループからは「高エネルギーパートが休止され復活の目処が立っていないにも関わらず”三者”のまま続けていくのは如何なものか」ということが問われている。また、核理論サブグループからは、実験系の学生の参加率が少ないことが問題視されている。

これらの問題点は、解決しておかないと予算が降りなくなる可能性を孕んでおり、三者夏の学校存続の為に解決しなければならない。その為に、以下の議案を提示する。

### 4.2 議案 1. 引き継ぎの早期化

原子核の実験系の学生の参加率が減少する理由の一つに、三者夏の学校がサマーチャレンジ(実験系の学生向けの合宿)の日程と被り得るということが挙げられる。8月下旬の引き継ぎ後に翌年度の開催日程を決めようとする空いている日程が大幅に制限され、サマーチャレンジと日程が被る可能性がある。これは、早期に引き継ぎをして早い段階で開催日程を決めることで回避することが可能である。当然、これは他の研究会と被らせない為にも有益であり、例えば高エネルギーパートの参加人数を確保したいのであれば、7月下旬に開催される加速器・物理合同 ILC 夏の合宿と日程を重複させたいため等、色々と融通が利く。

学会の援助申請とは無関係であるが、基礎物理学研究所の共同利用研究会としての予算申請を例年11月末に行っている。この申請の段階では、翌年度の三者夏の学校での講師が決まっている必要があり、講義のアブストラクトが揃っていることが好ましい。しかしながら、講師の選定が滞ってしまうと、これに間に合わなくなる可能性が出てくる。これを回避する為に、引き継ぎを早期化し、講師の選定に十分な時間を充てられるようにすることが望ましい。

### 4.3 議案 2. 高エネルギーパート存続の要否、及び研究会の名称変更

2016年度より高エネルギーパートは参加人数減少に伴い休止が決定しているが、今後の高エネルギーパートの扱いに関する見通しがついていないのが現状である。将来的に高エネルギーパートを存続させるかどうかを予め各役職校の方々にも考えて頂きたく、春の三者総会で本格的に議論する前に秋の三者総会を借りにこの問題を周知したい。

もし、高エネルギーパートを廃止、もしくは参加人数が集まる目処が立つまで様子見をするのであれば、(後者の場合は一時的に)研究会の名称を変更すべきである。

#### 4.4 FAQ

Q. 具体的に引き継ぎをいつまで早めるつもりなのでしょうか？

A. 議論の余地があると思いますが，例えば春の三者総会で引き継ぐはどうか．

Q. サマーチャレンジは大学院生向けではない筈ですが…

A. お手伝いとして大学院生が駆り出されている模様です．

Q. 研究会の名称なんて本質的な問題でないし，どうでも良いのでは？

A. どちらかと言うと，援助申請で指摘されている事柄を放置すること自体を問題視しています．指摘された内容に関して議論していないと，真っ当に機能していない組織でないと判断され，予算の申請に悪影響を及ぼし得るので．

Q. 具体的にどう名称変更するつもりなのか？

A. ”二者夏の学校”は安直過ぎる気がするので，”素粒子原子核夏の学校”とかが無難でしょうか．冗長なら”素核夏の学校”とか．